

【日時】 令和4年3月24日（木）13時30分～15時10分

【場所】 赤穂市総合福祉会館3階集会兼運動指導室

【出席委員】

渡邊節雄（赤穂市医師会副会長）
茶谷勝也（相生・赤穂市郡歯科医師会常務理事）
児嶋佳文（赤穂市社会福祉協議会理事長）
水野亮（赤穂市民生委員児童委員協議会会長）
島田裕弘（赤穂市自治会連合会副会長）
住所知之（赤穂市自治会連合会西部地区自治会連合会会長）
一瀬貴子（関西福祉大学社会福祉学部教授）
細川福成（在宅介護支援センターはくほう）
村上博樹（在宅介護支援センターいきしま）
水田三枝子（赤穂市介護支援専門員連絡協議会会長）

【欠席委員】

有吉一美（赤穂市老人クラブ連合会会長）
中谷裕美（赤穂健康福祉事務所副所長）
川島武志（赤穂市老人福祉施設協議会会長）
北垣佑那（在宅介護支援センターやすらぎ）
綿屋弘子（在宅介護支援センターしおさい）
小西圭子（在宅介護支援センター千種の苑）

【事務局】

山内陽子社会福祉課長
大川智子社会福祉課いきがい福祉総務係長
山本桂子地域包括支援センター担当課長
三上匡代地域包括支援センター担当係長
阿部永未子地域包括支援センター主査
小寺万有子地域包括支援センター主事
荒尾慎平社会福祉協議会第2層生活支援コーディネーター
河内悠希社会福祉協議会第2層生活支援コーディネーター

【次第】

- 1 開会
- 2 報告事項
 - (1) 生活支援コーディネーターの活動報告
 - (2) 今後の協議体について
- 3 協議体の振り返り
- 4 閉会

【議事録】

事務局 皆様にはお忙しいところ、ご出席くださいましてありがとうございます。
定刻がまいりましたので、令和3年度 第3回 赤穂市生活支援・介護予防サービス体制整備協議体を始めさせていただきます。
はじめに、本日の配布資料について、確認させていただきます。

(資料確認)

事務局 それでは、議事の進行を委員長にお願いしたいと思います。
委員長、よろしく願いいたします。

委員長 それでは、円滑な議事進行にご協力よろしくお願いします。
まず、委員の出席状況について事務局より報告をお願いします。

事務局 本日、委員16名のうち、出席は10名です。
協議体設置要綱第6条第2項会議成立要件であります委員の過半数に達しておりますので、本日の会議は成立しておりますことをご報告させていただきます。

委員長 事務局より報告いただきましたとおり、本日の会議が成立していることを宣言いたします。
協議に入ります前に会議の公開及び傍聴について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 協議体設置要綱第6条第4項により、この会議は公開となっております。
本日の会議につきましては不開示情報が含まれておりませんので、公開とさせていただきます。
なお、本日傍聴の希望者はございません。

委員長 それでは、次第に従いまして、『2 報告事項』に移ります。
『(1) 生活支援コーディネーターの活動報告』について、あわせて
『(2) 今後の協議体について』、事務局、お願いします。

事務局 (事務局より説明)

委員長 それでは来年度からは、事務局が先ほど報告したとおり、協議体を開催していくこととなります。よろしくをお願いします。

それでは、『3 協議体の振り返り』について移ります。事務局、お願いします。

事務局 (事務局より説明)

最後に、今までの協議体を振り返り、皆様のご意見をお聞かせいただけますでしょうか。

委員 任期の2年間ありがとうございました。本当に高齢化が進んで赤穂市も大変だと思います。この2年間コロナで市役所のみなさんはワクチンのことなど努力されていると感じまして、やはりつながりというかまず赤穂市がつながっていかねばならない。緊密な連携が必要であり、これからも皆で知恵を出して親しくなることが必要だと思いました。

委員 自分自身もこの会議が始まったころは普通の高齢者だったが、後期高齢者になりました。デジタルツールが目に見えて使いにくくなってきた。だんだんと同じことができなくなってきていることを身につまされて感じている。全体的に考えていく必要があると思います。

免許証返納については自分でも意識しています。いつまで運転できるのか。家族からも、そろそろ免許返納をと言われていた。自分ではまだしっかりしていると思っているが、自分で考えられるうちに結論を出したい。
今後どのようにいかしていくことができるのか、これからも皆で検討していく必要なことではないかと思っています。

委員 店のレジが自動精算機になっており、使い方に困った。自動精算機があらゆるところに普及しており、ついてくことができず、生きにくくなっている。デジタルツールの面については、時代は高齢者に生きにくくなっていると感じる。デジタルも便利かもしれないが、デジタルについていくことができない高齢者が増えていく。そこら辺を考えた方が、高齢者にやさしい社会になるのではないかと常々思っている。今のうちに皆でいい知恵をだして、10年後の自分が今より住みやすい社会になっていればと思います。

委員 この2年間はコロナの関係で地域のつながりの部分で大変だったと思います地域が大切なので、1層、2層がしっかり連携して協議体の運営をしていただきたいと思います。2層から上がってきた課題は1層で検討されるでしょうが、地域で解決できることは地域で解決することでよいと思うが、市がやらなければならないことはしっかり市の方で予算をつけて施策として実施をしていただきたいと思います。

 あと質問してよろしいか。

赤穂市生活支援体制整備事業実施要綱（案）については、決定なのか。

事務局 案とつけておりますのは、4月1日からの施行ということで決定事項です。

委員 就労的活動支援コーディネーターはなぜ配置するのか。第1層の協議体の構成員にはなぜ入らないのか。

 協議体に関する運営規定はなくなっているが、この辺の整備は何かの規定で制定するのか。協議体に関する財政支援は考えておられるのか。

事務局 就労的活動支援コーディネーターに関しては国の方から設置するようということもありますし、第8期赤穂市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画にもうたっています。元気な高齢者が増えていますので、その方々にも就労という形で活動の場を広げていきたいということで、マッチングするものを置きたいということで書かせていただいております。

 1層協議体の構成員に入っていない理由については、協議内容によって必要があれば、(5) その他市長が認めるものという形で入っていただければよいと考えています。

 協議体に対する設置要綱でしたが、事業の要綱とさせていただいており、財政支援に関しては、明記はしていませんが、今後の協議体の状況で協議をしていくという方向で考えています。

委員 地域の方々がいきいき百歳体操、憩いの場などで集まる場所を提供してくれないかということで自治会館を使用したらということであるが、コロナの関係で中断している。解除されてから再開するということにしていたが、延長で集まることができず、毎週月曜日に開催することになったと報告がありました。またどんどん利用していただいたらと思っています。

 家から近くなるので車ではなく、徒歩や自転車で移動ができるということになります。もっと多くの方が参加をしていただいて、自治会から回覧してもよろしいですよと伝えたのでまた口コミでも参加してくれるのではないかなと思っています。

 コロナの関係で難しい面があるのですが、感染防止には努めていきながらして

いただいたらと思っています。

委員 今年度2回の協議体があり、人と人とのつながりが根底にあり、そのためには何をするのかを話し合うことができたと考えています。元気な方だけが集まるのではなく、どうしようかなと迷ってる方がたくさんいると思うのでそういった方たちへの誘い、PRなどをこれからも粘り強くやっていく必要があると感じています。いろんな場所の提供、公共施設、民間なども合わせていろんな場所を探す、提供していただくことも考えていくといいかという風に考えています。

委員 協議体のグループワークについて2点程感想を述べたいと思います。テーマはよく考えられて設定されていると思いながら参加していました。地域住民のニーズを生活支援コーディネーターが具体的に把握をした上でグループワークをするとよいのではないかと思います。より一層地域住民のニーズに沿った対策が効率よく考えることができるのではないかと思います。協議でまとめた発表内容がその後の施策にどの点がいかされ、実現できるようにつながっているのか。また逆にどこが発展しすぎたグループワークだったのかということを知りたいと思いました。

委員 協議体を振り返ってということで、どのサブテーマも今後も話し合うべき内容であると思います。着目したのは移動面についてですが、第2層の天神山自治会の取り組みについての紹介の中で、参加者の声で「活動の場から離れている人も意外に参加していることが分かった。ただ、今後を考えると難しい人が増えるのではないか」という声はすごく貴重な意見だと思います。離れている人程、足がないために活動の場があっても参加できないということが出てくる。足の確保をしていかないとだんだんと人と人とのつながりが希薄になっていくので、まずはそこが大事かと思います。デマンドタクシーの充実やバスの話も出ましたが、歩行器が大きくなって持ち運びが大変になった。バスの利用を躊躇してタクシーを使っている人もいます。バスも歩行器やシルバーカーをのせてもらっている方もおられると思うが、これからも高齢者に優しいまちを主において実践していただければよいと思いました。

委員 今までの協議体で移動手段や集いの場の提供について話してきたと思いますが、社協だよりをみてもある場所にはあるが、ない場所にはないと思いました。今後協議体でしていかなければならないことは、種はまけていて、芽は出ているが、それを育てる方法をどうすればよいかとか、それを広げるためにはどうすればよいかに着目して、課題等をクリアする形で格差をなくすことが今後できればよいのではないかと思います。

委員 2年間協議体に参加させていただきまして、まず生活支援コーディネーターを知らなくて、協議体で初めて知りました。ケアマネジャーとしては、知らないケアマネジャーは知らない。活動報告をみせていただいて、いろいろなことをコーディネーターがしていると思いました。インフォーマルサービス情報交換会にも参加でき、情報共有できてよかったかなと思います。1層のはくほう会専門学校、関西福祉大学の多職種連携教育の協力に関する報告では主任ケアマネの更新研修でも地域に不足しているものを掘り出して、どこにもっていくかを検討していかなければならないと言われている状況があることからコーディネーターに協力していくこともケアマネとして必要になっていると思いました。

事務局 委員の皆様におかれましては、貴重なご意見ありがとうございました。協議を進めていくうえで、ずっと課題でありながら、どうすればよいか、皆が同じように悩んでいる解決に至りにくい課題ですとか、みなさんが年を重ねていきますので、みなさんにとっての課題問題になってくるかと思います。興味関心を持っていただくということで引き続きさせていただくことが必要だと思います。今後とも皆様の協力をいただきたいと思います。ありがとうございました。

委員長 長時間にわたり、ご協議いただきありがとうございました。
今回、お話しいただいた内容などについて、今後も、皆様のご意見やご協議をいただく事もあるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。
スムーズな議事進行へのご協力、ありがとうございました。
進行を事務局にお返しします。

事務局 各委員の皆様方には、大変お忙しい中ご協議いただきありがとうございました。
委員の皆様におかれましては、2年の任期ありがとうございました。
今後も、高齢になっても住み慣れた地域で住み続けられるために、誰もが気軽に介護予防、生活支援、社会参加ができるような地域づくりを目指して、皆様と一緒に協力しながら、進めてまいりたいと思っております。

これもちまして、本日の会議を終わります。本日は、ありがとうございました。